

映像作品上映会 + アーティストトーク

仙台写真月間2022の関連プログラムとして、映像作品上映会と、ゲストと参加作家が写真について対話をするトークイベントを開催します。各回定員20名、予約不要。開始時間前までにSARP space Aにお集まりください。

本プログラムの内容は記録を行い、後日アーカイブサイトに公開する予定です。

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては開催を中止する場合があります。HPにて開催の有無をご確認ください。 <https://2022.monthofphotography.jp/>

8.30 tue

『友だちの写真』『部屋の写真』 黒田菜月 映像作品上映会

観覧料 500円

9.3 sat

『友だちの写真』(25分)

2018年5月に横浜市立金沢動物園で子供たちを対象としたワークショップでの様子を映した作品。

子供たちは写真を使って問題をつくる「問題チーム」と、その問題を解く「推理チーム」の2班に分かれて動物園を歩き回り、互いが顔を合わせることなく写真を通してやりとりをする。

連日

19:15 -

『部屋の写真』(28分)

黒田が2017年頃から断続的にインタビューしてきた、介護の現場の人々の記録。

介護者に手渡される写真は、かつて介護者自身が介護した人の部屋の写真である。一人ひとりがその写真から何を見つけ、何を思い出し、どのように自分に引き寄せて言葉にしていけるか、写真を見て語るその時間に同行する。

9.4 sun

若山満大 × 黒田菜月 × 阿部明子

若山満大(わかやま みつひろ)

1990年岐阜県養老町生まれ。東京ステーションギャラリー学芸員。専攻は日本近現代美術史・写真史。愛知県美術館学芸員、あいちトリエンナーレ2016キュレトリアルチーム、アーツ前橋学芸員などを経てフリーランスとして活動後、現職。おもな企画展に「台風と秩序」(スタジオ35分、東京、2018)、「写真的曖昧 The blur in photographs」(金沢アートグミ、2018)など。共編著に『Photography?End? 7つのヴィジョンと7つの写真的経験』(magic hour edition、2022)がある。

13:00 -

9.10 sat

佐藤豊 × 高橋親夫

佐藤豊(さとう ゆたか)

1937年生まれ。漁師を退職後、写真の撮影をはじめ。震災後は仙台市荒浜にて海辺の写真展、七郷の定点撮影など地元を中心に写真家活動を続けながら、震災前の荒浜の写真を集めるプロジェクトも行っている。せんだいメディアテーク『3がつ11にちをわすれないためにセンター(通称わすれん!)』参加者。

18:00 -

9.11 sun

高田彩 × 松山隼

高田彩(たかだ あや)

1980年宮城県塩竈生まれ。2004年エミリー・カー美術大学卒。アーティストネットワークbirdo flugas代表、2006年ビルドスペース開廊。Shared Line Projectをはじめ国内外で企画運営を行う。2014年より塩竈市杉村惇美術館統括。

14:00 -

9.17 sat

大沼洋美 × 布田直志 × 城田清弘

大沼洋美(おおぬま ひろみ)

1982年山形県生まれ。天童市在住。東北芸術工科大学卒業。東京総合写真専門学校研究科卒業。大学副手を経て2011年より山形県小国町旧小玉川小中学校を拠点に「studioこぐま」をスタート。現在は写真家、フリーランスフォトグラファーとして活動。たまに大学非常勤講師。2005年、2008年仙台写真月間。2011年山形美術館「生まれるイメージ」。2014年寒河江市美術館にて個展。

18:00 -

布田直志(ふだ なおし)

1973年仙台市生まれ。東京ビジュアルアーツ卒。2002年よりフリーランスカメラマンとして仙台で活動開始。2009年、2012年仙台写真月間。2021年写真集「いつもと違う日々」(studio弓ノ町)。2022年「『いつもと違う日々』新しい生活様式の記録」多賀城市立図書館ギャラリーにて個展。

9.24 sat

坂本政十賜 × 植田優子

同期間に個展を開催する二人が、互いの展示作品をきっかけに写真についての対話を行います。

この対話は後日、文章化を行い、仙台写真月間アーカイブサイトでの公開を予定しています。

17:00 -